

ビバハウス便りNo121 『泊原発』の再稼働を許さないため、全国からの支援をうける！！

2017年8月29日 青少年自立支援センター ビバハウス
責任者 安達俊子

この8月19,20日にかけて『泊原発廃炉でいいんでないかい！！』をスローガンに『とまロック』が、岩内、泊を中心に開かれた。主催は「後志・原発とエネルギーを考える会」であったが、賛同団体のひとつに『余市9条の会』も加わっている。この集会に参加のためわざわざ鎌倉からこられた夫の高校時代の同期生の山田和明さんが21日に余市に来て下さった。夫の高校は1学年が10クラス以上あるマンモス校のため、在学時代はお互いに面識がなかったが、数年前にビバハウスを訪問してくださり、その際ハイブリットの除雪機をプレゼントしてくれた夫と同じクラスだった永田耕治さんが仲を取り持ってくださったのだった。

『泊原発』は活断層の上にある～今回行われた現地調査でも明らか
『とまロック』と同時に行われた『行動する市民科学者の会・北海道』が主催した現地調査では、小野有五北星学園大学教授の案内で、泊原発がまさに活断層の上にあることが現地で説明されました。この活動は8月21日道新にも取り上げられ、さらに22日付では、「『泊』活断層に注目」という見出しの記事も掲載されました。福島原発事故で、あれだけの犠牲者を出しながら、誰一人として殺人罪で処罰されないまま今日まで事態が放置されている事実、今こそ全国の心ある人々の力を結集し闘う事を学ばされた今回の出来事でした。

前号でお知らせした北星余市校卒業生の東京からのビバの新入所の女性は、すでに試験入所を終わり、早速ビバと提携しているワーカーズユープが余市で実施する『介護取得支援講座』への申し込みが完了し、8月31日からの開講に備えている。障害者年金に頼らないで、自らの力で自分の人生を切り開く決意に燃えている彼女の成功を祈るばかりである。